

いとも角もはかひなき城を法取勝國を揚よりまき
川村志村のあを義光公の市指易をうへしと安細山形
へ注をいれり義光公の表院斜ありに思は川村志
田のあへる具一た及たにいほは金津へ返さしと
作されを表る志村伊豆守を跡をいふ外縁はいたき
由信也をいふ即ち志村川村あへる金津へ返されり地
るに志村の金丸取たあを伊豆守に跡をいふ官向後宣
家頼重中跡をいふ是に定めて下をいふにやと後義光
公庄内酒田而下り有る伊豆守を酒田の城代に作され長
谷岩まで一万石の所は加増有る二万石に成下されり下治石城の

對馬守にあされ界郡を万二千石下され(二説)則尾浦
在城より由作され一門の者ハ石の所押ありて千石以下
され其力にあされり上杉家を治る萬四千石の知行ありしか
は家の武印に依りて五万五千石と成り上二城をいふの弓前
此面目よりやまされにありたり 扱又義光公の庄内は太荒字
と云ふ城をいふありて太荒字と改稱し市隱居城にお定
られ新関因幡守を後者郡七千石跡より馬上百騎足輕
式百人お給ふ城代よりて是をいふる後子細ありて番持にお
りり馬廻りの内より百五十騎より加増をせされ城代は小國
橋津守和國越中守等をせされり